

2014 年度春季海外研修（中国語・中国文化コース）研修レポート

盛岡短期大学部 Mさん

私達は3月4日から4月11日の39日間春季中国研修で北京の伝媒大学に滞在した。今年は参加者2人と人数が集まらなかったため、伝媒大学で中国語を学びにきている留学生に混ざって1ヶ月間中国語の授業を受けた。私がこの研修に行くことを決意した理由は2つある。1つ目は高校から第二外国語で中国語を勉強してきたが、あまり話すことが出来なかったため、自分の中国語のスキルを少しでも向上させたいと思ったからだ。2つ目は去年の夏休みに中国から来た大学生と1週間交流し中国に対するイメージが良い意味で変わり、実際の中国はどんな所なのか自分の目で確かめてみたいと思ったからだ。私は今回が初めての海外ではないが、一ヶ月以上滞在したことがないので自分の力で生活していけるか不安だった。またニュースで見る限り治安や衛生面はあまり良くないイメージがあったため、体調を崩さないか、トラブルに巻き込まれないか心配だった。しかし実際に1ヶ月間滞在し、困った時は日本人留学生の皆さんや先生方、クラスメートが助けて下さったおかげで何不自由ない生活を送ることが出来たし、毎日充実した日々を送ることが出来た。

北京に来た当初は日本との文化や習慣の違いに何度も驚かされた。交通整備と交通マナーがきちんとされている日本とは違い、何度もクラクションを鳴らしたり、方向指示器を出さずに車線変更、右左折をしたり信号を無視して車道を横切ったりするのが北京では普通なことに驚いた。

最も驚いたのは日本と中国の接客態度の違いだ。おつりやチケットの渡し方は雑だし、勤務中に携帯をいじったり、買ってくれるまで強引に勧められ腕を引っ張られたりした。「本当に働く気があるのだろうか」、「日本では絶対にあり得ない」と思った。しかし日本には日本人に合った、中国には中国人に合ったサービスの仕方があり、ホスピタリティは世界共通ではない。その国の文化や慣習によって違うのだということを実感した。

3月10日から4月10日の1ヶ月間は授業があったが、授業が始まる前にレベル分けのテストがあった。このテストの結果で1～6班まで分けられるが、1週間のうちは他の班の授業も受けられるので自分に合ったレベルの授業を受けることができた。私は2班で授業を受けることに決めた。授業はリスニング、スピーキング、漢字、文法の4つがあり、先生方は英語でも説明して下さるがほとんど中国語だった。クラスメートは韓国人、ドイツ人、アメリカ人、スペイン人、インドネシア人など様々な国から来ていて幅広い世代の人達が中国語を学びに来ていた。正直2班は初級の方だし、自分と同じくらいの語学力ではないかと甘くみていた所があったが、皆漢字の読み書きは出来なくても日常会話程度の中国語は話せていてスピーキングの授業は最初ついていくのに必死だった。また他の国の方は英語は流暢に話せるが、私は英語も中国語も流暢に話せないためクラスメートや先生に言いたいことが伝わらず、言葉の壁を感じたことも多々あった。自分の語学力のなさを実感したし、日本で勉強していた中国語のレベルは基礎中の基礎だったのだと実感した。このことは既存のクラスで授業を受けていなければ気づかなかったことであり、良い刺激を受けたと同時に勉強に対する姿勢や意識の高さにも感銘を受けた。他の国の方は分からないことがあるとすぐ先生に質問したり、習った単語、文法を使って自分から中国語を話したりしていた。また、ここでは誰かが間違えても他の人がフォローしてくれる。間違える＝恥ずかしい、頭が悪いと思われるといったような考え方をするのは日

本人だけなのではないかと思った。日本のように先生が一方的に話して、生徒は黙って座って聞いているという受身の授業では、いつまでたっても上達しない。間違えることを恐れず自分から進んで話してみることが外国語を学習する上で最も大切ではないかと思った。他の国の人と共に勉強し、日本人との違いに驚いた面もある。ここでは遅刻は当たり前でひどい時は2人だけで授業を受けることもあった。遅刻してきても先生に謝ることもなく普通に前から入ってくるし、先生も遅刻してきた人に対し注意することもない。この時間のルーズさにはとても驚いたが、様々な国の人と交流する機会は岩手ではなかなかないため、日本との違い、様々な国の文化に触れることが出来て本当に良かった。

授業がある平日はなかなか外出出来なかったが、週末は日本人留学生の方に様々な所へ連れて行ってもらい、観光も十分に楽しむことができた。万里の長城、天安門、故宮、北京動物園、大型ショッピングモール、王府井、前門、南鑼鼓巷、西単、秀水街、北京で人気の遊園地欢乐谷など北京で有名な観光地にはほとんど行くことが出来た。他にも私たちの要望に応じて北京ダッグが美味しいレストランやお土産屋、桜まつりに連れて行って下さり、感謝してもしきれない。2人だけで買い物をしたり、ご飯を注文したりする際は自分から授業で習ったフレーズを実際に使うことが出来た。自分の発音が悪く通じないことが何度かあったが、通じた時は本当に嬉しかった。最初は自分達でご飯を注文することも出来なかったが、1ヶ月も経つと日常的によく使うフレーズは自然と覚えられたし、値段交渉も出来るようになった。中国語を習うのは日本でも出来るが、中国語でしか会話や意思疎通ができない環境では自分からどんどん話してみることが重要だと感じた。

この研修を通してたくさんの人と出会い、たくさんの方の温かみや優しさに触れた。様々な所へ連れて行って下さったり、寮での生活のサポートをして下さった日本人留学生、日本語学科の中国人の方々をはじめ、授業で困っていると優しく教えてくれたクラスメート、何か困っていることはないかいつも気にかけて下さった先生方、体調が悪くなった際病院に連れて行って下さった留学生、道を教えて下さったり、私たちが理解するまでゆっくり説明してくれた現地の人々などこの1ヶ月で感謝の気持ちを伝えたい人がたくさんいる。北京にいる間ホームシックにはあまりならず、むしろこのまま中国にいたいという気持ちが日に日に強くなっていったのは、自分が出会った方々とお別れしたくないという気持ちからではないかと思う。また、中国に対するイメージが良い意味で変わったことも自分の出会った人々が大きく影響していると思う。やはり実際に行って自分の目や肌で触れなければ本当のことは分からない。そのためテレビや新聞の情報だけで判断したり、異文化に対し偏見の目で見たりするのではなく、一度受け入れ、自分で確かめてみるのが大切だということが分かった。これは異文化に触れるときだけでなく、人とコミュニケーションをとる際にも同じことが言えるのではないか。自分の勝手なイメージ、先入観でその人がどんな人が判断したり、他人の意見を否定したりするのではなく、他人の価値観を一度受け入れることはとても大切なことだと思う。このことに気づけたのが私の一番成長した部分だと思う。

この研修で満足することなく今後も継続して中国語の勉強を頑張り、流暢に会話が出来ようになりたい。また、日本に帰っても出会った方々とSNSを通して交流を続けていきたいと思う。また、まずは自分の身近な人に中国の良さを伝え、少しでも中国に対する誤解、偏見がなくなるよう行動に移していきたい。

最後に何のトラブルもなく安全に研修を終えることが出来たのは劉先生や職員の方のサポートのおかげです。本当にありがとうございました。

1. 生活について

北京は、日本と気候が似ていて過ごしやすい場所であった。一番心配されたのは空気 (PM2.5) であったが、生活に支障がない程度のもので、日本から持って行ったマスクもほぼ使用しなかった。食べ物においては、日本と比べ価格が安いものが多く、味も非常に美味しかった。主に、中華料理を食べていたが、大学の周りにはたくさんのレストランがあり、日本食を始め、韓国料理、イタリアン、アメリカンフードなど、様々な国の料理を食べることができ、その点においては日本と変わりなかった。学食が充実しており、大学内のレストラン、食堂であれば、一食約8元~10元（日本円で約160円~200円）で食べる事ができた。大学内の敷地に、図書館、スーパーマーケット、病院、銀行もあり、留学生も不自由なく生活することが出来た。大学の周りには、大学生や留学生の寮があり、近くには地下鉄の駅、市場があり、夜も比較的人が多いため、安全に生活することができた。



2. 学習について

中国語の授業が始まる前に、クラス分けテストというのがあり、自分のレベルに合ったク

ラスを選ぶことができた。私は、中国語初級クラス（一班）に入り、主に中国語の発音・文法の基礎を勉強してきた。クラスには、アメリカ・カナダ・イギリス・ベトナム・フィリピン・ジャマイカ・ブラジル・韓国・朝鮮など、様々な国から留学生が来ており、国際色豊かなクラスであった。授業は、発音を習ったり、クラスメイトとペアになり会話練習をしたり、自分の意見を発表したりと、日本の授業と比べてとにかく『喋る』『声に出す』ことが多かった。初心者クラスではあるが、先生はほとんど英語を使わず、中国語だけで授業をしていた。周りの留学生は分からないことがあるとすぐ質問したり、完璧な中国語ではなくとも、話そうという意志が強く、自分にとって非常に刺激になった。授業の進度も早く、毎日の予習復習が必要であったため、かなり勉強になった。また、授業では日常生活ですぐに使える中国語も勉強するため、大学の外に出てご飯を食べる時、買い物をする時、習った会話をすぐに実践することができ、自分の中国語を上達させるために、最適な環境であったと感じた。



3. 最後に

私にとってこの 39 日間の中国研修は間違いなく大きな意味を持ったものであった。39 日という限られた時間ではあったが、非常に濃い時間を過ごすことが出来たと思う。私は、入学当初から、中国語を勉強して中国に行きたいと思っていた。それが実現できたことを大変嬉しく思う。私は、一年間第二外国語として、中国語を勉強してきたが、勉強してきたと言っても今思うと週一回の授業に出ていただけであった。自ら勉強したり、検定を受けたりということはしておらず、第二外国語に対する学習の意識がかなり低かった。しかし、北京に行き、自分の中国語が最初全く通じなかったことや、中国語を話さなければ生活できない環境で過ごしたことで、自分の足りない部分について気づくことができた。第二外国語の習得には、かなり地道な努力が必要であること、強い意志を持って取り組むことが大切だということに気づくことができた。これは、実際に北京に行ったから気づけたことであり、身をもって感じたことであるため、これから先も忘れることはないと思う。

中国では沢山の人に助けられて生活し、多くの優しさに触れた。自分たちが困っている時にいつも助けてくれた日本人留学生の方、お店で注文する時、中国語を上手く話せなくても優しく手助けしてくれた店員の方、迷って道を聞けば丁寧に教えてくれた中国人、授業中に手助け

してくれた友達、私たちをいつも気にかけてくれた先生、もっともっとここには書ききれないくらい沢山の人たちに助けてもらった。私の 39 日間は、このような人たちの支えで成り立っていたのだと感じる。

北京に行って、万里の長城や故宮博物院といった世界遺産を実際に見ることが出来た事、天安門広場や王府井など北京の歴史ある場所にも行くことが出来た事は、自分にとって貴重な経験となった

また、中国に行く前は、食べ物が危ない、空気が汚いなどというニュースを見て心配になった時期もあった。しかし、実際に行ってみるとニュースの報道とはかなり違う部分もあり、北京に行って、多くの誤解が解消された。やはり、実際に行ってみないと本当のことは何も分からなく、変な偏見を持ったまま、自分の視野を狭めてしまうことになってしまうと思った。北京に行き、色々な事を自分の目で見て肌で感じる事ができ、本当に良かったと思う。この体験を忘れず、これからの将来壁にぶつかっても、様々なことに挑戦していきたい。

